

## 依知南及び緑ヶ丘小学校と中依知、王子及び緑ヶ丘児童館の 複合化の手法について

### 1 検討の経過

市立依知南小学校及び緑ヶ丘小学校の建替えに当たり、公共施設個別施設計画に位置付ける、複合化や集約化を検討する適正配置検討施設について検討した結果、小学校と児童館を複合化することで、施設の利便性の向上や児童の放課後の居場所づくりの充実が図られるほか、利用者の安全性の確保にもつながることなどのメリットがあることから、小学校と児童館との複合化の方向性を示す中依知、王子及び緑ヶ丘児童館再整備方針（以下「整備方針」という。）を令和5年3月に策定しました。

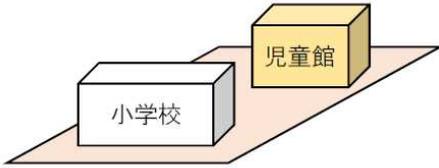
整備方針では、小学校と児童館を複合化することの方向性を示しており、複合化の手法（単独複合又は併設複合）については、市民の皆様からの御意見を参考にしながら、最も適切な手法を採用することとしています。

そこで、複合化の手法について、整備方針の策定に当たって実施したパブリックコメントの意見を踏まえ、複合化に伴う課題を整理し、総合的に評価を行いました。

#### (1) 3つの課題

- ア 各施設の責任区分の明確化（責任区分）
- イ 複合化に伴い必要となる運用ルールの整理（運用ルール）
- ウ 安心・安全を確保するためのセキュリティ対応（セキュリティ対応）

#### (2) 王子及び緑ヶ丘児童館再整備方針で示している2通りの複合化の手法

	単独複合施設	併設複合施設
定義	<p>敷地に対し1つの建物が配置 また1つの建物に対し2つ以上の施設が配置されていること</p>  <p style="text-align: center;">小学校敷地</p>	<p>敷地に対し2つ以上の建物が異なる施設として配置されていること</p>  <p style="text-align: center;">小学校敷地 (隣接地を含む)</p>
実施時期	<p>令和6年度に更新時期を迎える市立依知南小学校中央棟、令和7年度に更新時期を迎える市立緑ヶ丘小学校東棟の建て替えに併せて、周辺にある王子、緑ヶ丘及び中依知児童館の複合化を行います。</p>	<p>中依知、王子及び緑ヶ丘児童館の更新時期に併せて、周辺にある小学校への複合化を行います。</p>

(3) 整備方針策定に係るパブリックコメントにおける複合化の手法に対する主な意見

- 併設にすると運動場が狭くなり死角が増える。
- 単独複合化する場合でも、学校と児童館のフロアは分けて、学校とは別の入口を設置した方がよい。
- 現在の厚木北児童館と厚木小学校が良い事例
- 学校と同じ建物だと、学校に少し苦手意識のある子が、児童館を利用しにくくなる。
- 学校側の負担が増えるため、働き方改革の観点から、あくまで別のものということをハッキリさせた方がいい。
- 児童館に問い合わせるべきことも、学校に連絡が来て、学校に本来必要のない業務が増える。
- 単独複合だと下校後などに学校内に侵入したり、忘れ物を取りに入ってくる子が増え、トラブルが増える。

## 2 検討の結果

### (1) 複合化の手法の定性的な評価

検討の視点	単独複合施設	併設複合施設
<b>課題1</b> 責任区分	△ 異なる機能を同一建物内に配置するため、共用部分の取扱いや各施設の責任区分を整理したが、明確に区分することが難しい。	○ 別棟のため、各施設の役割分担や責任区分を明確にすることができる。
<b>課題2</b> 運用ルール	△ 未就学児やその保護者、また児童以外の18歳未満の者も校舎内に立ち入るため、運用ルールを整理したが、教職員への負担はかかってしまう。	○ 別棟のため、児童以外の18歳未満の者が校舎内に立ち入ることはなく、運用を明確に区別できる。また、物理的に区分されるため、利用者にとっても問い合わせ先がわかりやすい
<b>課題3</b> セキュリティ対応	△ 未就学児やその保護者、また児童以外の18歳未満の者も校舎内に立ち入るため、セキュリティ対応について検討を行ったが、完全に動線を区分するなどの対応は難しい。	○ 法令上、学校と児童館の敷地を明確に分ける必要があるため、セキュリティも確保できる。
<b>総合的な評価</b>	△	○

## (2) 総合的な所見

複合化の手法を検討する中で、想定される課題への対応については、併設複合施設に優位性が認められる結果となった。

一方、公共施設最適化基本計画の目標とする「今後40年間で不足する約422億円の財源不足の解消」の実現に向けた取組としては、異なる用途の公共施設を複合化することで、施設の延べ床面積を減らし、維持管理費の抑制が期待できる単独複合施設を採用することが望ましい。

こうした視点も踏まえ、市立依知南小学校及び緑ヶ丘小学校の建て替えに伴う、中依知、王子及び緑ヶ丘児童館の複合化の手法については、併設複合施設を採用することとするが、児童数の将来推計に基づく、適正な規模で児童館を再整備するとともに、放課後児童クラブや現在検討を進めている多世代交流による地域コミュニティ施設との複合化について検討を行い、施設総量の抑制を図っていくものとする。

なお、中依知、王子及び緑ヶ丘児童館を併設複合施設として再整備する時期については、基本的には施設の耐用年数とするが、児童の利便性の向上・放課後の居場所づくりの充実といったメリットを踏まえ、各施設の老朽化状況に応じた適切な時期に複合化を実施するものとする。

また、今後、学校敷地内のセキュリティ対応や児童の学習環境への影響といった諸課題に適切に対処しつつ、公共施設個別施設計画短期再編プログラムに位置付ける小学校の建て替えについては、単独複合施設として児童館を整備することについて、引き続き検討を行っていくものとする。

施設名称及び建物名		複合化を行う施設 (目標耐用年数)	複合化の手法	複合化の時期
依知南小学校	中央棟 西棟	中依知児童館 (R31)	併設複合施設	各児童館の目標耐用年数(更新時期)とする。ただし、各施設の老朽化状況に応じて前倒しする場合もある。
緑ヶ丘小学校	東棟	王子児童館 (R20)		
	西棟	緑ヶ丘児童館 (R57)		